令和三年度　全日本中学生水の作文コンクール愛媛大会

同中央審査　優秀賞　佳作

「水と共に生きる」

新居浜市立中萩中学校　二年　松原（まつばら）　七海（ななみ）

「あれは水の重力エネルギーを利用して電気を作る発電所だよ。」山あいを走る車から見えた建物について尋ねた私の問いに、父はそう答えた。水の作文に関するテーマを探していた私は、父の話に興味を覚え、図書館で調べてみる事にした。

車から見えた建物は、市内の住友関連会社が運営する山根発電所という水力発電所だった。これまで、水といえば毎日の飲み水に歯磨きや料理、また、洗濯やお風呂にトイレなど日々の生活に欠かせないものという印象しかなかった私にとって、自分が住む街で、「水から電気が作られている。」という事実は、新鮮な気づきだったし、同時に、なぜ水が電気になるのかという疑問も湧いてきた。

水力発電は、水が高い所から低い所へ流れ落ちる力で水車などを回し、直結している発電機で発電する。山根発電所では、百六十メートル超の落差で発電しており、最大出力は、住宅約二千戸分の電気をカバーできる規模になるという。そんな大きな電気が水から作られるのだという驚きと、これまで知らなった水の力を知り、私は素直に凄いと感じた。

また、水力発電は、二酸化炭素などの温室効果ガスを排出しないクリーンな発電方法であること、そして、発電に使った水は蒸発して雨として自然の循環によって再生される、いわゆる再生可能エネルギーとしての特徴がある事も知った。たまたま目にした山あいにひっそりと佇む建物が、よく見聞きする地球温暖化の防止やＳＤＧｓの推進に貢献するものだったのだと分かり、私はなんだか急に誇らしい気持ちになった。

自宅で父に話すと、発電所で作られる電気だけでなく、発電に利

用された水も市内の住友各社に送られ、工場の電力や工業用水として使用されていることを教えてくれた。新居浜市は、江戸時代の別子銅山開坑以来、住友関連各社の発展と共に歩んできた歴史を持つ街だが、山根発電所は、そうした産業の発展を縁の下で支える役割を担ってきてくれていたのだと思い、感慨深い気持ちになった。

そして、今回、私にはもう一つ心を動かされた事があった。まず、山根発電所の建設は、毎年のように起こる洪水被害の防止、そして産業の発展と人口増大に伴う発電量及び農工業用水の確保を目的に、愛媛県と新居浜市、住友共同電力が一緒になって取り組んだもので、二つの新しいダムの建設と山根発電所を含む二つの発電所を新設するという壮大な計画に基づくものだった事だ。そして、更に驚いたのは、各施設で利用される水は、吉野川水系銅山川という私の自宅から見える四国山地の山々を超えた向こう側にある川から運んでいるという事実だった。千メートル級の山を越えて水を運ぶ細かな理論は私には理解できないが、ダムの建設や水の権利に関する交渉など、長い年月をかけた取り組みの経緯を関連書物で読み進むうちに、そこに携わった人々の熱い想いがあふれてくるのを感じた。人間の生命にとって水が必要不可欠なのと同様に、水を源にした発電や用水の実現は、新居浜市の産業の発展にとって、欠かすことのできない要素だったのだ。

もちろんこうした取り組みが及ぼす環境や生態系への影響も見過ごしてはいけない。これまで私達は、美しい自然の中で水に囲まれ、便利に水を使い、時としてしっぺ返しを受けてきた。ずっと昔からそうして水と深く関わりながら生きてきたのだ。だからこそ、水と上手く付き合っていかなければならない。水力発電について調べてみて、水が持つ可能性とその大切さを実感する事ができた。

これからも人は技術を進歩させていくと思うが、技術に依存せず、自然を想う気持ちを心に留めながら、水と共に生きていく努力を重ねていく必要がある。私自身も水と共にある生活を大切に感じながら暮らしていきたい。